

62歳男性。造影CTにて肝細胞癌が疑われ、精査加療目的に当科へ入院した。

【既往歴】アルコール性肝硬変・HBV陽性・虫垂切除

【生活歴】飲酒：日本酒5合/日 喫煙歴：20本/40年

【入院時現症】身長：168.5cm 体重：70.1kg BT：36.8℃ BP：147/82mmHg

HR：82bpm SpO2：96%(room air)

意識清明 リンパ節腫脹(一) 眼瞼結膜：貧血(一) 眼球結膜：黄染(一)

腹部所見：平坦、軟、圧痛なし、腸蠕動音正常、血管雑音なし、脾・腎・肝臓を触知しない、腫瘍触知をしない、クモ状血管腫を認めない、黄疸(一)、腹水(一)、右側腹部に手術痕あり

【検査所見】

血算：RBC $345 \times 10^4/\mu\text{L}$ Hb 11.6g/dL Ht 34% WBC $7800/\mu\text{L}$ Plt $28 \times 10^4/\mu\text{L}$

生化学検査：AST 52 U/L ALT 48 U/L LD 186 U/L ALP 286 U/L γ -GTP 88 U/L

AMY 90 U/L Alb 3.5 mg/dL BUN 28 mg/dL T-Bil 1.8 mg/dL Cre 0.6 mg/dL

血清免疫学検査：HBs抗原(+) HBs抗体(一) HBc抗体(一) HCV抗体(一)

AFP 140 ng/dL(基準値：20 ng/dL以下) PIVKA-II 84 mAU/mL(基準値：40 mAU/mL)

IGG15分停滞率：8%

【画像所見】

経動脈的門脈造影下CT(上)

肝動脈造影下CT(下)

このスライス以外でもS2、S4領域に腫瘍を認めた。

以上の検査から肝細胞癌が疑われ、肝動脈化学塞栓療法(TACE)が行われることとなった。



1.本疾患に対する治療について、説明が誤っている文章を2つ選べ。

- a)肝両葉に腫瘍があるため、肝切除術は選択されなかった。
- b)ICG15分停滞率の値から、肝切除術は選択されなかった。
- c)HBs抗原が陽性であるため、肝動脈化学塞栓療法が選択された。
- d)門脈の閉塞がないので、肝動脈化学塞栓療法が選択された。
- e)ミラノ分類から逸脱するため、肝移植は選択されなかった。

2.この患者に採血を行った際に針刺し事故が起きた場合、曝露者の事故直後の採血結果がどのような時に抗HBs人免疫グロブリンとHBワクチンの投与をすればよいか。選択肢から1つ選べ。

- a)HBs抗原(+)
HBs抗体(-)
HBc抗体(-)
- b)HBs抗原(+)
HBs抗体(-)
HBc抗体(+)
- c)HBs抗原(-)
HBs抗体(-)
HBc抗体(+)
- d)HBs抗原(-)
HBs抗体(+)
HBc抗体(-)
- e)HBs抗原(-)
HBs抗体(-)
HBc抗体(-)

回答 1.bc 2.e

21 歳女性。ステロイド依存性に再燃する潰瘍性大腸炎のため来院、入院した。

【既往歴】 薬剤性肝機能障害・脂質異常症・鉄欠乏性貧血

【生活歴】 飲酒：なし 喫煙歴：なし

【入院時現症】 身長：163.3 cm 体重：74.5kg BT：36.5°C BP：107/79 mmHg
HR：98 bpm SpO2：98 % (room air)

意識清明 リンパ節腫脹(－) 眼瞼結膜：貧血(－) 眼球結膜：黄染(－)

胸部所見：特記事項なし

腹部所見：平坦、軟・圧痛(－)・肝を触知しない

血便(－)・下痢(+)・排便回数 5～6 回・腹痛あり

【検査所見】

血算：RBC $384 \times 10^4 / \mu\text{L}$ Hb 12.1g/dL Ht 38% WBC 8700/ μL Plt $19 \times 10^4 / \mu\text{L}$

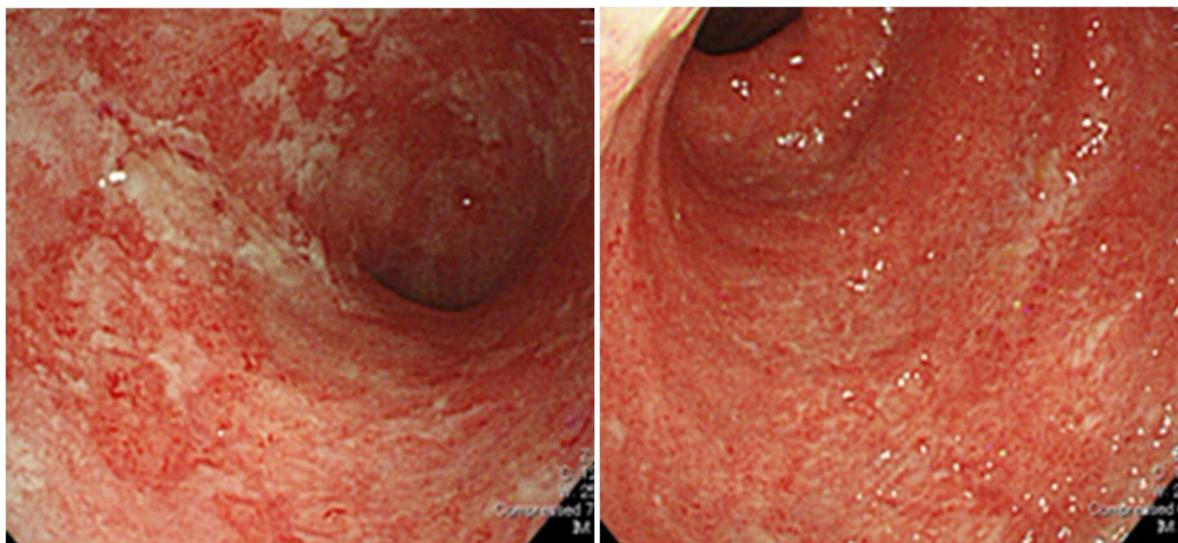
生化学検査：AST 38 U/L ALT 41 U/L LD 202 U/L ALP 244 U/L γ -GTP 28 U/L

Alb 4.8 mg/dL BUN 12 mg/dL T-Bil 1.2 mg/dL Cre 0.5 mg/dL CRP 1.2 mg/dL

血清免疫検査：HBs 抗原(－) HBs 抗体(－) HBc 抗体(－) HCV 抗体(－)

【画像所見】

下部消化管内視鏡検査：下図に示す



1.潰瘍性大腸炎の病理所見について正しいものを2つ選べ

- a)胚細胞の減少
- b)非乾酪性肉芽腫
- c)乾酪性肉芽腫
- d)紡錘体細胞
- e)陰窩膿瘍

2.潰瘍性大腸炎の重症度を判定するのに必要でない評価項目を1つ選べ

- a)発熱
- b)血便の有無
- c)排便回数
- d)病変範囲
- e)貧血の有無

3.潰瘍性大腸炎の患者において合併率の高い感染症を1つ選べ

- a)Adenovirus
- b)Klebsiella pneumonia
- c)Clostridioides difficile
- d)MRSA
- e)Cytomegalovirus

回答 1.ae 2.d 3.e

55 歳男性。数日前に上腹部痛を自覚し、昼にかけて増悪したため他院に受診、入院した。入院中に容態が急変し、当院に搬送され、直ちに輸液を開始した。

【既往歴】 高脂血症

【生活歴】 飲酒：ビール 350ml×4 本/1 日 喫煙歴：なし

【入院時現症】 身長：178.6cm 体重：89.2kg BT：39.0°C BP：82/63mmHg
HR：180bpm SpO₂：92%(リザーバー付きマスク 6L/min)

傾眠傾向(JCS:II-30) リンパ節腫脹(一) 眼瞼結膜：貧血(一) 眼球結膜：黄染(一)

胸部所見：呼吸音左右差なし Coarse Crackles(+) 胸水(+) 肺野透過性低下

【検査所見】

血算：RBC 272×10⁴/μL Hb 8.8g/dL Ht 27% WBC 12600/μL Plt 9×10⁴/μL
PT 59 % APTT 52.3 sec D-dimer 18 μg/mL FDP 67 μg/mL AT-III 54 %
生化学検査：AST 42 U/L ALT 48 U/L LD 513 U/L ALP 244 U/L γ-GTP 78 U/L
Alb 3.8 mg/dL AMY 1980 U/L BUN 42 mg/dL T-Bil 1.2 mg/dL Cre 1.8 mg/dL
FBS 138 mg/dL T-Chol 310 mg/dL TG 840 mg/dL Na 143 mEq/L K 4.8 mEq/L
Cl 93 mEq Ca 7.6 mg/dL CRP 22 mg/dL

動脈血ガス分析：pH 7.31 PaCO₂ 52.3 Torr PaO₂ 58.1 Torr BE -4 mEq/L

【画像所見】

腹部造影 CT：下図に示す



1.この症例の所見と矛盾するものを一つ選べ。

- a)Cullen 徴候
- b)浮腫
- c)Grey-Turner 徴候
- d)頸静脈怒張
- e)腸蠕動音減弱

2.直ちに投与すべき治療法を三つ選べ。

- a)広域抗菌薬
- b)メシル酸ガベキサート
- c)グルコン酸カルシウム
- d)抗 DIC 療法
- e)インスリン

3.本症例の予後因子と関係のないものを一つ選べ。

- a)年齢
- b)血小板数
- c)血糖値
- d)CRP
- e)尿素窒素

回答 1.d 2.abd 3.c